

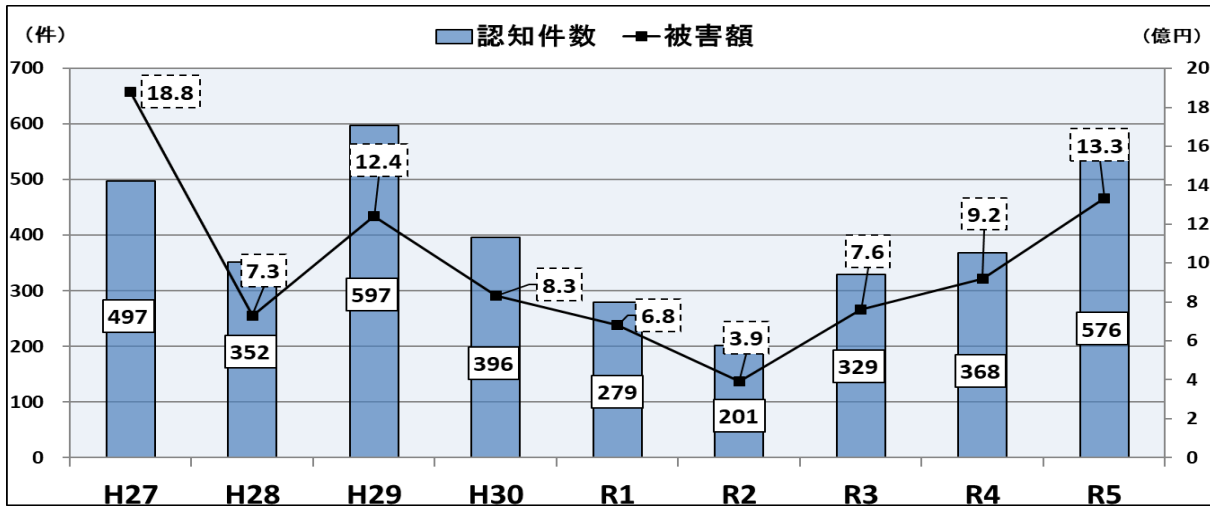
令和5年中のニセ電話詐欺認知状況等について

令和6年1月12日
捜査第二課
生活安全総務課

1 認知件数・被害額 ※（ ）内は前年比、千円以下は四捨五入

- 認知件数 576件 (+208件、57%増加)
- 被害額 13億3,105万円 (+4億822万円、44%増加)

2 平成27年以降の被害の推移



- 認知件数は、平成29年の597件に次ぐワースト2位
- 被害額は、平成27年の18.8億円に次ぐワースト2位

3 手口毎の発生状況

類型別	認知件数		前年同期比		被害額		前年同期比	
	R5.12	R4.12	件数	増減率	R5.12	R4.12	額	増減率
オレオレ詐欺	85	79	+6	+8%	28,945万円	19,081万円	+9,864万円	+52%
預貯金詐欺	29	22	+7	+32%	5,601万円	4,815万円	+787万円	+16%
架空料金請求詐欺	281	93	+188	+202%	50,595万円	45,640万円	+4,955万円	+11%
還付金詐欺	88	85	+3	+4%	6,932万円	7,721万円	-789万円	-10%
融資保証金詐欺	17	15	+2	+13%	853万円	1,426万円	-572万円	-40%
金融商品詐欺	19	1	+18	+1800%	33,295万円	700万円	+32,595万円	+4656%
ギャンブル詐欺	0	0	±0	-	0万円	0万円	±0万円	-
交際あっせん詐欺	0	0	±0	-	0万円	0万円	±0万円	-
その他の詐欺	7	0	+7	-	1,832万円	0万円	+1,832万円	-
キャッシュカード詐欺盗	50	73	-23	-32%	5,052万円	12,901万円	-7,849万円	-61%
合計	576	368	+208	+57%	133,105万円	92,283万円	+40,822万円	+44%

キャッシュカードを狙った手口	79	95	-16	-17%	10,653万円	17,715万円	-7,062万円	-40%
----------------	----	----	-----	------	----------	----------	----------	------

※ キャッシュカードを狙った手口 = (預貯金詐欺 + キャッシュカード詐欺盗)

【特徴的傾向】

- 架空料金請求詐欺、金融商品詐欺が大幅に増加
※金融商品詐欺は、R5.12に被害額2.1億円の高額被害を認知
- オレオレ詐欺が増加
- キャッシュカードを狙った手口は減少

【補足】

令和5年から、いわゆる「サポート詐欺」と呼ばれていた手口を架空料金請求詐欺として計上している。

「サポート詐欺」

パソコンに「ウイルス警告」のポップアップが表示され、表示された電話番号にかけると、ウイルスサポート会社をかたる者から、「原因を確認します」等と言われ、ウイルス除去名目でコンビニエンスストアで電子マネーカードを購入させてその利用権をだまし取るなどする手口

パソコンにポップアップが表示される状況



令和 5 年のサポート詐欺の発生状況

認知件数 125 件 被害額 5,514 万円

4 交付形態別の発生状況

交付形態別	認知件数		前年同期比	
	R5.12	R4.12	件数	増減率
振込型	198	138	+60	+43%
送付型	28	10	+18	+180%
現金受取型	73	80	-7	-9%
キャッシュカード受取型	32	23	+9	+39%
電子マネー型	191	41	+150	+366%
収納代行利用型	1	3	-2	-
キャッシュカードすり替え型	50	73	-23	-32%
その他	3	0	+3	-
合計	576	368	+208	+57%

被害額		前年同期比	
R5.12	R4.12	額	増減率
54,213万円	26,116万円	+28,098万円	+108%
34,572万円	17,560万円	+17,012万円	+97%
23,010万円	29,689万円	-6,679万円	-22%
5,601万円	4,815万円	+787万円	+16%
10,168万円	1,063万円	+9,105万円	+857%
6万円	140万円	-134万円	-
5,052万円	12,901万円	-7,849万円	-61%
483万円	0万円	+483万円	-
133,105万円	92,283万円	+40,822万円	+44%

【特徴的傾向】

- ・ 電子マネー型の被害が大幅に増加
- ・ キャッシュカードすり替え型は減少

5 被害者の年齢層

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
オレオレ	0	6	1	3	0	3	17	52	3	85
預貯金	0	0	0	0	1	1	7	18	2	29
架空料金請求	6	20	7	27	40	74	80	26	1	281
還付金	0	0	0	0	3	80	5	0	0	88
融資保証金	0	3	5	4	4	1	0	0	0	17
金融商品	0	2	3	2	4	3	5	0	0	19
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交際あっせん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の特殊詐欺	0	2	4	1	0	0	0	0	0	7
キャッシュカード詐欺盗	0	0	0	0	0	0	8	40	2	50
合計	6	33	20	37	52	162	122	136	8	576

	64歳以下	65歳以上	合計
オレオレ詐欺	10	75	85
預貯金詐欺	1	28	29
架空料金請求詐欺	138	143	281
還付金詐欺	19	69	88
融資保証金詐欺	17	0	17
金融商品詐欺	13	6	19
ギャンブル詐欺	0	0	0
交際あっせん詐欺	0	0	0
その他の特殊詐欺	7	0	7
キャッシュカード詐欺盗	0	50	50
合計	205	371	576

【特徴的傾向】

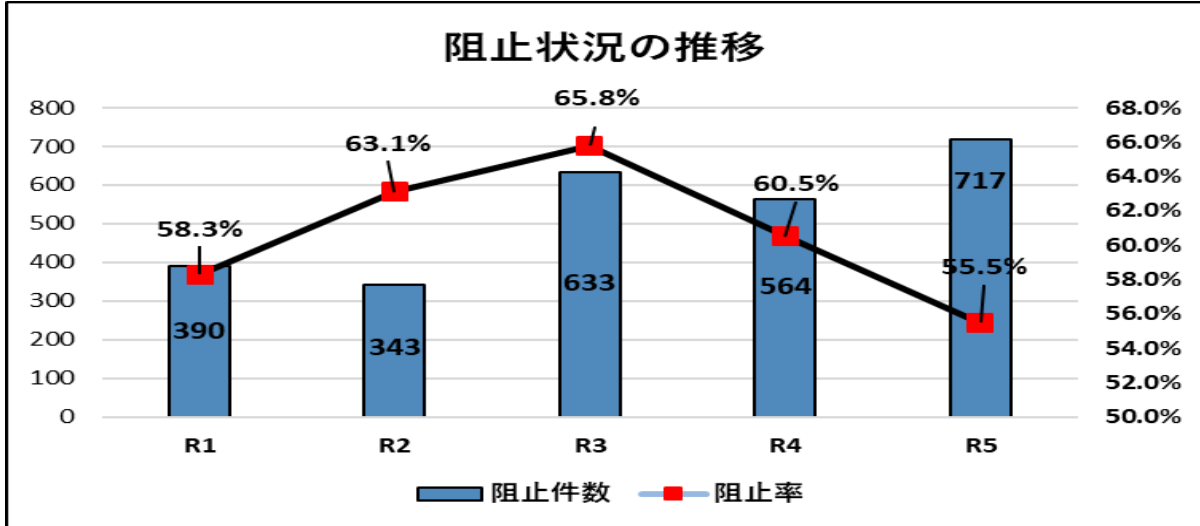
- ・ 全体被害の約 6 割が 65 歳以上の高齢者
- ・ オレオレ詐欺、キャッシュカードを狙った手口（預貯金詐欺+キャッシュカード詐欺盗）の被害者は約 9 割が 65 歳以上の高齢者
- ・ 架空料金請求詐欺、金融商品詐欺は、幅広い年齢層で発生
- ・ 還付金詐欺の被害者は 9 割が 60 歳代

6 ニセ電話詐欺の阻止状況

(1) 令和5年中の阻止状況 ※（ ）内は前年比

- ・ 阻止件数 717件 (+153件、27%増加)
- ・ 阻止額 2億3,096万円 (+7,067万円、44%増加)
- ・ 阻止率 55.5% (-5.0ポイント) ※ 阻止率=阻止件数÷(認知件数+阻止件数)

(2) 阻止件数・阻止率の推移



(3) 阻止者・阻止額の状況

	金融機関			コンビニ	家族親族	友人知人	公的機関	その他	合計
	銀行	郵便局	その他						
件数(割合)	52 (7%)	25 (3%)	25 (3%)	287 (40%)	196 (27%)	13 (2%)	21 (3%)	98 (14%)	717
阻止額(万円)	3,640	3,370	1,150	3,034	9,052	755	100	1,995	23,096
端緒	窓口(レジ)	28	19	20	280		0	8	355
	ATM	15	6	3	2	1	0	10	37
	電話相談等	9	0	2	5	195	13	21	325

※その他～通信事業者、一般人など

(4) ニセ電話気づかせ隊参加状況

- ・ 参加団体 1万2,402団体 (前年比 +187団体)
- ・ 参加人数 37万4,644人 (前年比+2,705人)

(5) 主な阻止事例

・ コンビニエンスストア店員による阻止

被害者の携帯電話にNTTファイナンス職員をかたる者から連絡があり、「ネットの登録料と使用料が未払いである。本日中に支払わないと裁判になる。」などと言われ、被害者が犯人の指示通り、コンビニエンスストアで電子マネーカードを購入しようとしたところ、対応した従業員が、「声掛けシート」を提示したことにより、被害を未然に防止したもの

・ 金融機関職員による阻止

医師を騙る者から「息子さんが病院に来ている。」、息子を騙る者から「財布を置き忘れた、お金が必要。」等と連絡を受けた被害者が、金融機関窓口でお金を引き出そうとするも、金融機関職員が被害者の言動を不審に思い、警察に通報し、被害を阻止したもの

- ・ **訪問介護士による阻止**

百貨店職員を騙る者から「カードを悪用されている。」旨の連絡を受けた被害者が、自宅で犯人グループとカードの再発行や受け渡し等について電話連絡を行っていた際、居合せた訪問介護士が不審に思い、警察に通報し、被害を阻止したもの

- ・ **タクシー運転手による阻止**

架空料金請求詐欺の被害者が、電子マネーカードを購入するためにタクシーに乗り、「アップルギフトカードを購入しに行く。」等経緯を話したところ、タクシー運転手が被害者の言動を不審に思い、最寄りの交番に被害者を伴い、被害を阻止したもの

- ・ **家族による阻止**

被害者の携帯電話にNTTファイナンス職員をかたる者から電話があり、「動画・音楽の有料サイト利用料金が未納となっているので、支払って下さい。支払いは、コンビニで電子マネーカードを買って裏面の番号を教えてください。」などと言われ、被害者が息子に電話で相談したところ、「詐欺ではないか。」と言われたことから、警察署に通報し、被害を未然に防止したもの

7 ニセ電話詐欺の検挙事例

① 門司警察署・小倉北警察署

令和5年9月、予兆電話発生地区を警戒していた小倉北警察署地域課員の職務質問を端緒に、県内で連続発生したオレオレ詐欺の被疑者（受け子）を門司警察署において緊急逮捕した。

後日、被疑者が逮捕時に所持していた被害金約130万円を被害者に返還した。

② 八幡西警察署・折尾警察署・捜査第二課

令和4年以降、他県警との合同捜査を推進し、特殊詐欺でだまし取られた電子マネーを公営ギャンブル（競輪）の販売サイトを悪用して現金化していた悪質事業者の代表者を組織的犯罪処罰法違反で検挙した。